

普及情報

経営構造対策事業を活用した施設野菜産地の拡大

1 はじめに

神戸市西区では、伊川谷町や平野町などで軟弱野菜、岩岡町でトマト、いちご、キャベツの栽培が盛んに行われている。特に、軟弱野菜については、神戸市の契約栽培事業や、ほ場整備後の計画的なパイプハウスの整備などにより、栽培面積が1980年にかけて急激に増加した(図)。2000年からは、産地のさらなる発展を目指し、市、農協、普及センターが連携しながら経営基盤確立農業構造改善事業(現経営構造対策事業)に取り組んできた。この事業により軽量鉄骨ハウスが建設され、さらに、それをモデルにして施設野菜産地が拡大されつつある。

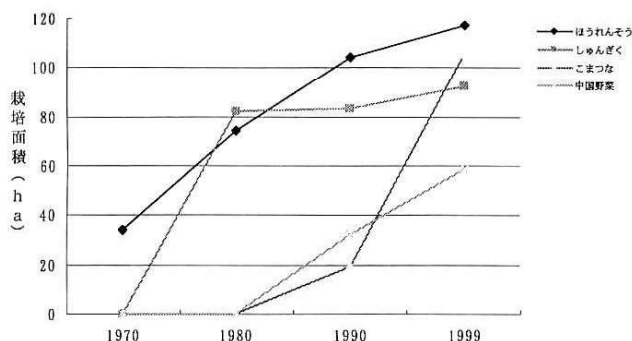


図 神戸市における軟弱野菜栽培面積の推移
(2000年度神戸市内農漁業の現況より)

2 伊川谷町前開地区におけるハウス建設

これらのハウスは、面積が24,065㎡、棟数は29棟、事業費は3億1千5百万円で、兵庫六甲農業協同組合が事業主体となり、太山寺 Compound Operation グループ(代表者 楠本俊裕氏)17戸の農家にリースしている。グループは伊川谷町前開上、中、下地区のほうれんそう、しゅんぎく、こまつな等の軟弱野菜やチンゲンサイ等の中国野菜の栽培農家で結成

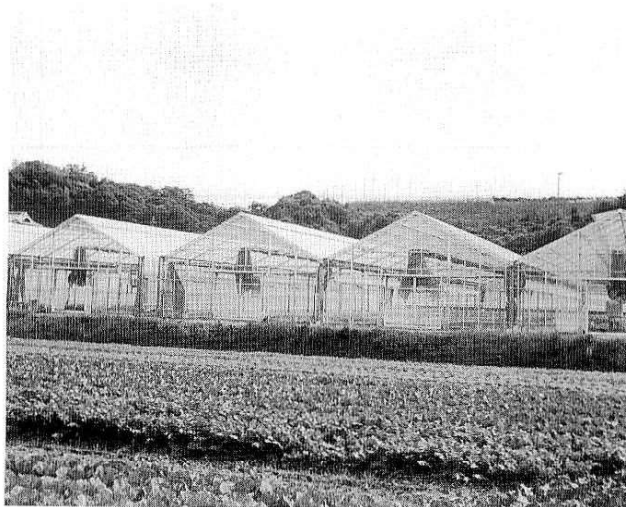
されている。この施設の特徴は、構造が風速38m/秒に耐えられる軽量鉄骨であり、台風等による被害の心配も少なくなった。また、被覆資材には耐用年数15年のフッ素系のフィルムを使用しているため、毎年行ってきたビニールの張り替え作業からも解放された。さらに、細霧冷房装置も備えており、夏場の作付体系がたてやすくなり、防除作業の省力化にもつながっている。

3 地域への波及効果

本年からは、伊川谷町前開地区をモデルにしたハウスの建設が管内の各地で進んでいる。平野町西戸田地区の4戸のトマト栽培農家で養液土耕による栽培が計画され、ハウスの建設が行われている。

また、伊川谷町井吹地区の5戸の軟弱野菜およびトマト栽培農家においてもハウスの建設が進んでいる。さらに、岩岡町においても、計画が進められようとしているところであり、経営構造対策事業の活用により、さらなる施設野菜産地の拡大が期待されている。

日岡 千之(神戸普及センター)



神戸市西区伊川谷町前開地区に建設されたハウス